



Regional IPA/JPS Meeting · 第36回日本老年精神医学会 ランチョンセミナー10

日時

2021年

9月18日(土) 13:00-13:50

講演

認知症と精神疾患の鑑別診断の実際 ～経過、症候を中心として～

座長：近畿大学医学部精神神経科学教室
教授 橋本 衛 先生

演者：京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学
教授 成本 迅 先生

- ・ WEB配信にて実施いたします。
- ・ 視聴には学会への参加登録が必要です。参加登録者に学会より視聴サイト/視聴方法をご案内いたします。
- ・ 日本老年精神医学会ホームページ <http://www.rounen.org/>



共催

Regional IPA/JPS Meeting · 第36回日本老年精神医学会
/ 東和薬品株式会社

認知症と精神疾患の鑑別診断の実際 ～経過、症候を中心として～

京都府立医科大学大学院医学研究科 精神機能病態学
成本 迅

幻覚妄想などの精神症状で初診した症例について、経過や症候から認知症と精神疾患の鑑別を行うことは、老年精神医学の知識やスキルが最も力を発揮する場面といってもよいかもしれない。本講演では、このような症例を診察するときの鑑別疾患のための思考プロセスを追いながら、日常診療で役立つ知識を整理していきたい。例えば、構築された幻覚妄想を有し、注意障害を主体とする軽度の認知機能障害を伴う症例の場合、どのような症状を確認し、どのように経過を追えばよいだろう。幻視を主体として、症状の変動がみられる症例ではどうだろうか。鑑別のためには頻度の高い疾患を念頭に置きつつ、頻度の少ない疾患も除外していく必要がある。また、一度の診察で診断がつかない場合は、一定の期間を設けて症状の変化を観察していくことも画像検査と同等かそれ以上の診断的意義を有することがある。このような診断プロセスを通じて老年精神医学の持つ魅力についても考えてみたい。最後に、軽微な精神症状を評価するMild Behavioral Impairment (MBI) の概念とそれを用いた研究について紹介する。